

みやま市における総合評価方式の取り組みについて

平成20年12月3日：福岡県みやま市土木課

1、はじめに

みやま市は福岡県の南部に位置し、一部が熊本県と接した地域です。東部は御牧山、清水山などの丘陵や山系が連なっています。西部は有明海の干拓によって開かれた低地があり、全体として平坦な田園地帯が広がっています。

北東から南西へ向けて一級河川の矢部川が流れており、地域は有明海に接する矢部川下流域の左岸側に位置しています。この矢部川を中心に、飯江川や大根川などの河川が地域内を流れています。これらの河川は近世以来、生活用水や農業用水を確保するため様々な利水、治水工事が行われています。

新市の面積は105.12km²となり、福岡県下では前原市と同程度となります。土地利用の特徴は森林面積が比較的小さく、耕地が大きいことが特徴として挙げられます。福岡県全体の耕地比率が18%であるのに対し、新市は45%、同じく県の森林面積比率が45%であるのに対し、新市は18%となっています。

2、総合評価方式の導入経緯

当みやま市の入札形態は、19年度まで、「指名競争入札」と「随意契約」のみでしたが、市民に対する入札契約制度の透明性確保と、価格と品質が優れた調達により公共工事の品質確保を目的とし、20年度より1000万円以上の土木工事に対して総合評価方式（特別簡易型）による条件付き一般競争入札を試行実施しました。

3、総合評価方式の導入結果

総合評価方式の導入に際しては、特別簡易型を採用したこと、また福岡県職員の指導により比較的順調に実施することができました。

今後の課題としては総合評価（簡易型）の導入が求められますが、担当職場体制の充実が必要なため、今後の課題となります。

4、最後に

今回、当市においては、条件付き一般競争入札と総合評価方式の導入を行った結果、発注者として、公共工事の品質確保と共に、地元優良企業の健全な保護育成に資することができました。

総合評価方式による、工事成績を評価する入札方式は、工事施工業者、工事発注者双方にいい意味で緊張感を与える入札方法だと思います。

今後も限られた予算の範囲内で品質が優れた公共工事の発注に努める所存です。